



## いしかわ学びの指針12か条推進校の取組から

いしかわ学びの指針12か条推進校指定事業も2年目となりました。今年度は、各推進校が研究発表会等を実施し、優れた実践や参考となる取組の普及・啓発を図ることが趣旨となっています。各研究推進校がこれまで実践された主な取組を紹介しますので、ぜひ参考にしてください。

推進校の取組から見える

### 共通する成果と特徴

#### 成果① 12か条を生かし、研究構想や授業研究の重点化が図られている

いしかわ学びの指針12か条を自校の実態に応じて目標化や焦点化し、研究構想に位置づけています。さらに、授業を見る視点や重点目標に関連付け、有効な検証の視点としています。

#### 成果② 目指す授業像を明確にし、児童生徒にイメージをもたせている

学校としての目指す授業像や児童生徒像を教職員で明確にしています。それをどのように児童生徒と共有し、意識づけにつなげるかという取組が進んできています。

#### 成果③ 学習課題を工夫し子どもが取り組みたくなる状況を作っている

課題意識につながる課題の内容や提示の工夫により、児童生徒の意欲化が図られています。そのために教材研究を充実させ、教科の特質を生かした課題設定が意識されています。また、ICTを利用した工夫も進んできています。

#### 成果④ 学級に落ち着きがあり、児童生徒一人一人が考えようとしている

研究発表会では、どの授業においても、子どもの学びに向かう姿や教師との関係が良好でした。その背景として、研究内容に「基盤づくり」や「生徒指導」との関連づけが明確に掲げられており、学級づくりと効果的に関連付いているためではないかと考えます。

#### 成果⑤ 学校ぐるみの授業改善に向け、研修方法に創意工夫がある

学校として「授業スタンダード」を作成し基本的な授業展開を共通理解したり、「参観チェックシート」を活用したりし、学校全体が同じ方向性をもって実践・検証が行われています。また、ワークショップ形式を活用し、より効果的な協議となるための工夫が図られています。

# 加賀市立錦城東小学校

みずから学び、ともに学び合う子どもたち  
～自分の考えをもち、伝え合う力を高める算数をめざして～

## 成果③ 児童の意欲を引き出す 課題の工夫

本校では、「考える力」と「伝え合う力」の育成を研究の2本柱にし、研究実践を行っています。

### ◇思考力を高める工夫

- ・考えたい問題提示の工夫  
電子黒板の利用、クイズや予想からの課題の設定（研究発表会の公開授業より）
- ・「〇つけ法」で意欲を高め、思考をさらに引き出す

### ◇学習活動の工夫

- ・「5つの論理語」（「まず、次に」「だから、すると」等）を用いた表現力の育成
- ・復唱法による理解の定着

### ◇吹きだしを用いた 考え、表現する力の育成

- ・自分の考えを吹き出しに書きながら、筋道立てて解決
- ・ペアトーキングを通じて、考えを論理的に表現する



## 成果② 児童に付けたい力を意識させた 評価の工夫

＜学習者＞

### キンヒガ ホップ・ステップ・ジャンプ！

～自分の算数力をふり返ろう！～

年 組 名前( )

項目	ホップ	ステップ	ジャンプ
聞く力	6月	6月	6月
	7月	7月	7月
	10月	10月	10月
	12月	12月	12月
伝え合う力	6月	6月	6月
	7月	7月	7月
	10月	10月	10月
	12月	12月	12月
話す力	6月	6月	6月
	7月	7月	7月
	10月	10月	10月
	12月	12月	12月
書く力	6月	6月	6月
	7月	7月	7月
	10月	10月	10月
	12月	12月	12月

### ◇「キンヒガ ホップ・ステップ・ジャンプ」による 評価の工夫

学校として付けたい「考える力」「伝え合う力」「書く力」の内容を昨年度一覧表にした。さらに、今年度は、それをもとに「児童用」と「教師用」を作成し、それぞれが自己評価できるように改善した。



ペアトーキングの様子

### ＜研究発表会（11/8）参加者の感想＞

- ・難しい課題に挑戦し、自己解決の時間をしっかりとることで、「書ける」児童が増えていることを実感しました。式や図なども自分から書いて考えている様子が見られました。
- ・言葉かけや〇つけのタイミングなど参考になりました。全職員で研修をしているとのことで、一貫した指導が行われていることがとてもいいと思いました。
- ・チャレンジタイムでは、算数の問題の中に国語の力も必要な問題も「まず」「次に」「だから」を使いこなして考えている点が素晴らしいと思いました。この25分間は、力が付く取組だと感じました。

# 加賀市立山中中学校

思考力、判断力、表現力の向上と学ぶ意欲を育む授業の工夫  
—言語活動の充実—

本校では、いしかわ学びの指針12か条を生かした授業づくりの重点目標を設定しています。

- 1条 根拠や筋道を明確に表現させる
- 3条 習得した知識や技能を活用・応用させる

**成果①**  
12か条を生かした  
授業づくりの重点化

☆重点目標を意識した具体的な取組を指導案に明記

5. 本時の指導【標準コース（発展）】（第二次の第2時）
- (1) 題材 いろいろな関数
  - (2) 目標 グラフが階段状になる関数について、変化のようすやその特徴を考えることができる。  
【数学的な見方や考え方】
  - (3) いしかわ学びの指針12か条との関連式に表しにくい関数であっても、表やグラフを活用・応用して課題解決ができることを確認し、関数の考え方が実社会において有用であることを意識させる。(3条)

## 【授業づくりの実践】

- ・学習課題や提示の工夫
- ・自分の考えをまとめる場の設定
- ・互いの考えを深める場の設定
- ・ノート指導，ワークシートの工夫
- ・発問の吟味，板書の工夫
- ・授業形態の工夫

### 内容

## 【教科の枠を超えた研究グループ】

- Aグループ（社会，英語）
- Bグループ（国語，音楽，美術，保健体育，技術・家庭）
- Cグループ（数学，理科）

### 組織

## 【授業研究の方法】

- ・研究授業や参観ウィークに「授業参観用紙」で意見・感想の交流を行う。
- ・グループ内で指導案検討会や模擬授業を行う。

### 方法

**成果⑤**  
組織的な授業研究と  
検証の工夫

授業参観用紙	教科( )
1	明確なねらいと学習の見通しの提示
2	学習意欲が出る題材の設定（課題の提示の仕方が適切である）
3	自分の考えをもつ場の設定や手だて（1条） （活用力向上を意識した活動場面の設定が適切になされている）
4	自分の考えを発表する場の設定や手だて（1条） （活用力向上を意識した活動場面の設定が適切になされている）
5	知識・技能を活用する場の設定や手だて（3条） （既習事項が確認されてる）

授業参観用紙で検証

## 〈研究発表会（10/28）参加者の感想〉

- ・生徒たちの活発な話し合いの様子が見られ，先生の関わり方や生徒との信頼関係など日々の努力がうかがえました。
- ・ペアやグループ活動でも生徒同士でしっかり話し合いができていました。
- ・根拠をもって説明するなど，ルール設定がしっかりできており，勉強になりました。





主体的に学び、共に高め合う子の育成

**成果②**  
**目指す授業像に向けた具体的な取組**

● **学び合いの工夫**

- 1 **学び合う学習集団づくり**
  - ・「学級力向上プロジェクト」児童参画の学級づくり
  - ・6年生のステージ上での模擬授業（生徒指導部と研究部の連携）
  - ・「めざす授業像」を児童と教師とが共有
- 2 **教師の手立てや学習形態の工夫**
  - ・児童の発言をつなぎ、思考をゆさぶる発問の工夫
  - ・目的に応じたペアやグループでの活動
  - ・自分の考えを自覚し、考えを再構築する場の設定



**成果⑤**  
**教材や具体物を通して考える  
指導案検討会の充実**

● **指導案や検討会の工夫**

- 1 **国語科の取組：言語活動のモデルで検討**
  - ・教師が作った具体物のモデルリーフレットを指導案と共に提案
  - ・リーフレット作成の言語活動を通して「付けたい力が付くか」「意欲が高まるか」を協議
  - ・言語活動と関わらせて教科書教材を読むように二次を展開



(6) ノート案

く	13	-	4	の	け	い	さ	ん	の	し	か
た	を	か	ん	が	え	よ	う				
①	○	○	○	○	○		○	○	○		
	○	○	○	○	○						
	13	-	4	=	9						
10			3								
②	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	○	○	○	○	○						
	13	-	4	=	9						
			3		1						
③	13	-	4	は	.	ひ	く	た	す	ほ	う
	と	ひ	く	ひ	く	ほ	う	の	ふ	た	つ
	の	や	り	か	た	で	け	い	さ	ん	で

算数科指導案に記載の「ノート案」

2 **算数科の取組：ノート案の作成**

- ・教師が予想した児童のノート案を指導案に示し検討
- ・図と式と「ちょっとの言葉」を書かせる際の「キーワード」を具体的に予想
- ・学び合いで取り上げる考えを予想
- ・出た考えの全てを取り上げるのではなく、ねらいに迫る関連したものを取り上げ焦点化

〈研究発表会（11/13）参加者の感想〉

- ・子どもたちが自分の考えをつないでいる姿が見られました。目指す授業像がクラスの中でしっかりと共有されているのだと思います。
- ・1年生でも「まず」等、理由や根拠をそえて自分の考えを自分の言葉で話す子が多くてびっくりしました。
- ・「図や表を活用してプレゼンポートをつくろう」を単元のまとめに設定し、児童が積極的に「天気を予想する」で、資料の効果や有効性をしっかり考えていました。根拠を明らかにするため、教科書の本文にかえりよく考えていることがわかりました。



# 小松市立芦城中学校

「わかった・できた・使える」力を育む授業づくり  
～生き生きと学びに向かう生徒の育成を目指して～

**成果①**  
12か条を  
「目指す生徒像」の  
3カ年計画に

## ●目指す生徒像の取組

**H24年度**「自分の考えをもち、根拠を示して表現できる生徒」【学1条】

- ・授業づくり研究プランの作成
- ・「芦城中スタンダード」の確立

**H25年度**「物事を多様な観点から考察し、多面的・多角的に思考しようとする生徒」【学2条】

- ・伸びの可視化
- ・「笑顔あふれる学校づくり宣言」

**H26年度**「学んだ知識や技能を身につけ活用できる生徒」【学3条】

**成果⑤**  
共通理解・共通実践の重視

- 1 目指す授業に向けた生徒との共有  
「芦城中スタンダード」  
「みんなで作る授業のための7か条」  
「授業参観シート」

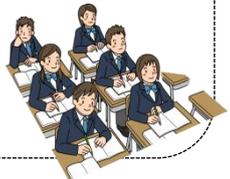
- 2 改善点をキーワード化  
ワークショップ形式の授業整理会で、共通理解・共通実践をキーワード化して掲示し、明日からの実践につなげる。



芦城中の目指す授業像	
生徒が自分の考えを持ち、多面的・多角的に思考し、より考えを深めていく授業	
目指す生徒像	目指す教師像
<b>つかむ</b> <b>1 学習課題を把握する</b> ○課題を把握し、考えようとする意欲をもつ ○学習の見通しをもつ	<b>1 課題提示</b> ○ねらいに迫る適切な課題設定をする ・生徒とともに導き出した課題 ・生活や体験をいかした課題 ○興味関心を引き出す提示の仕方を工夫する ○学習の見通しを持たせる
<b>考える・深める</b> <b>2 自分の考えを持つ</b> ○自分の考えをもつ ○考えを書く <b>3 友達のを聞いて考える</b> ○自分の考えと比較しながら聴く ○根拠を明確にして話す ○友達のを生かして自己の学びを深める	<b>2 思考する場の設定</b> ○多様な思考を導き出す工夫をする ・自分の考えを持つ時間を確保する ・考える視点を明確に示す ○自分の考えを書く活動を取り入れる ・表現方法を提示する ・考えを持ってない生徒への手立てを準備する <b>3 学び合い</b> ○思考を深めるために価値のある話し合いの場を設ける ・山場（考えさせどころ）を見極め ・学び合いに有効な学習形態の見極め ○適切な表現方法で、根拠を示して考えを表現させる ・キーワードでまとめて発表する力の育成 ○発言を深める問い返しや思考をゆさぶるしかけを工夫する
<b>まとめる</b> <b>4 まとめる</b> ○自分の言葉でまとめる ○「わかった・できた」ことを実感し、新たな課題に気づく	<b>4 まとめる</b> ○ねらい達成に必要な言葉を用いてまとめる ・生徒の言葉を生かして、本時の学びの振り返りをする ○思考・判断の深まりを実感させる評価をする ・「わかった・できた」と生徒が実感できる確認をする

### 〈研究発表会（11/20）参加者の感想〉

- ・多面的・多角的に思考させる授業では、それをさせられる課題であることはもちろんのこと効果的なグループ学習（学び合いの場）が必要不可欠であると改めて分かりました。そして、グループ活動を効果的に行わせる工夫が必要であり、多様な考えをいかに共有させるかみんなが理解できるかが大切であると実感できました。
- ・ワークショップ形式の方が教師集団の学びが大きいと実感しました。



# 能美市立 辰口中央小学校

心豊かに自ら学ぶ子の育成  
～学び合いを通して、活用する力を育む算数の授業づくり～

## 成果② 児童と共に作り上げる 授業設計の工夫

### ●算数科の授業改善

#### ①論理的思考を促す3段階の授業設計

1時間の授業を3段階（ステップⅠ～Ⅲ）で設計して、新しい知識を促しながら、既習事項を根拠にして推論を進めていける「筋道立てて考える力」を育てる。

#### ②協同学習を軸とした授業展開の共有

ペアやグループ活動を意図的に位置づけることで、全ての児童が思考できる状況を設け、理解の深まりや広がりをもたせていく。

#### ③話し合い指導の充実

伝え合う力を育て、学び合いを活性化するために、「聴き方」「話し方」「話し合いの仕方」について、段階的に指導する。授業交流を活用して、めざす授業像を明確にし、児童と「学びのめあて」を話し合いながら決める。

#### ④「算数的に書く」表現の指導

式や図または言葉を用いて考えを簡潔に表現する力を育てる。

ステップⅠ⇒みんなで考えて新しい事柄を理解する。  
ステップⅡ⇒自分（みんな）で確かめてわかる。  
応用問題を考える。  
ステップⅢ⇒練習してできるようになる。  
学習を自分の言葉でまとめる。  
発展問題に取り組む。



## 成果④ 組織的に取り組む学習の基盤づくり

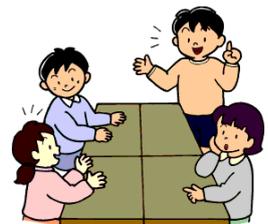
### ●教育活動全体における取組

- ・学習基盤づくり：言語環境の充実。学習掲示物の共通化。校舎内環境の整備。
- ・学力づくり：スキル学習の充実。家庭学習習慣の確立。読書活動の推進。
- ・学習評価：授業交流の取組。評価テストの分析。アンケート等による検証。

#### 〈研究発表会（11/29）参加者の感想〉

・子どもにとって学ぶことは楽しいことだということを再確認できました。授業では、児童は既習事項を使い、意欲的にそして楽しそうに課題解決に取り組んでいました。また、グループ学習やリレー発表もとてもスムーズに行われていておどろきました。

・とても素直で、まっすぐ一生懸命学習している子どもたちの姿が大変気持ちよかったです。授業のスタイルが定着していること、協同学習の意味や大切さが共有されていることが子どもたちのすてきな姿につながっていると感じました。





一人ひとりの「ゆたかな学力」を育む学校づくり  
～学習意欲の向上と学習習慣の定着をめざして～

全教科共通の授業スタイル「寺井中授業スタンダード」を策定し、生徒が主体的に課題に取り組めるようにする。

「つかむ→考える→深める→まとめる」を授業の流れの基本としながら、その中に生徒の思考の場や効果的な学び合いの場、生徒の思考をつなげ深める教師のかかわり等の視点を盛り込んでいる。

**成果⑤**  
**全教科共通の授業スタイルの確立**



**成果⑤**  
**学校研究・授業研究の活性化**

寺井中授業スタンダード	
<p>「寺井中授業スタンダード」とは、生徒が主体的に課題に取り組む「つかむ→考える→深める→まとめる」ことを基本的な流れとする授業のスタイルです。全教科共通のものとして教師が意識し、実践することで、生徒の思考力・判断力・表現力を高めています。</p>	
	<p>目指す生徒の姿</p> <p>学習課題の確認をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を想起している。</li> <li>課題を解決しようとする意欲をもっている。</li> </ul> <p>学習の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項をつなげながら課題を解決する見通しをもっている。</li> </ul>
	<p>教師の手だて・働きかけ</p> <p>課題を提示する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意欲をもたせるために課題提示の仕方を工夫する。</li> <li>ねらいに迫るための必要感のある課題を設定する。</li> </ul> <p>学習の見通しをもたせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を全員で共有しているか確認する。</li> <li>必要により既習事項を確認する。</li> </ul>
展開	<p>自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを書いて表現している。</li> <li>学習用語やキーワードを用いてまとめている。</li> </ul> <p>考えを交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを根拠を明確にして説明している。</li> <li>自分と親友の考えとの共通点や相違点に注意しながら発表を聴き取っている。</li> <li>学び合いにより、理解を深めている。</li> </ul>
	<p>思考する場の設定をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の思考の場を確保し、授業への参加度を高める。</li> <li>一人一人の考えやつまづきを把握する。</li> </ul> <p>効果的な学び合いの場を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何のために学び合うのか目的を明らかにする。</li> </ul> <p>☆一番よい考えを選ぶため</p> <p>☆できるだけアイディアをあつめるため</p> <p>☆よりよい考えにまとめるため… など</p> <p>☆ 発表の羅列に終わらないようにする。</p> <p>☆ 生徒の発言を聞き返し、生徒同士の考えをつつたり広げたりして思考を深めていく。</p> <p>☆ ○○さんのこの意見と同じ人はいるかな。</p> <p>自分の言葉でもう一度言ってみて。</p> <p>☆ ○○さんと違う意見の人はいるかな。</p> <p>どういふ点が違ったのかな</p> <p>☆ ○○さんの考えをまとめて言うとか… など</p> <p>☆ 学びのあとが分かる構造的な板書にする。</p> <p>☆ 教えるべきことはきちんと教える。</p>
まとめ	<p>学んだことを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題に戻って分かったことをまとめている。</li> <li>学び合いを通して、親友から学んだことや自分の考えの変容を振り返っている。</li> <li>本時を通して分かったことやできたことに対する達成感をもっている。</li> </ul> <p>学んだことを自覚させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいに対する視点で振り返らせる。</li> <li>生徒の言葉を生かしてまとめる。</li> <li>本時を振り返り、まとめたことを確認し、「わかった」「できた」という達成感や成就感を味わえるようにする。</li> <li>適用題などで学んだことの定着を図る。</li> </ul>

「授業改善3つの視点」（授業づくりの指標）

- ①基礎・基本の定着が図られているか
- ②効果的な学び合いの場が設定されているか
- ③意欲を高めるための言葉かけを工夫しているか

●校内研修会の充実

- ・年度当初に提案授業を行い、寺井中学校の目指す授業像の共有化を図っている。
- ・「模擬授業→授業整理会→研究授業→授業整理会→次の模擬授業」のサイクルの重視。
- ・若手塾を開催し、実践を交流することでお互いを高め合っている。

●検証の工夫

- ・生徒による授業評価アンケート：全教師の授業について6項目で生徒が評価し、授業改善に生かしている。
- ・各種学力調査の質問紙調査、生徒の学習意識調査、教員の自己評価アンケート。



〈研究発表会（11/22）参加者の感想〉

・「学び合う」とはどういうことなのかを改めて学ばせていただきました。授業ではやはり学習課題が大切だと思いました。何を考えさせ、授業の最後に何を生徒たちに残したいのか、教師としてのねらいもしっかりとをもって授業を組み立てなくてはならないと思いました。ありがとうございました。

# 川北町立 中島小学校の取組

主体的に考え学び合う子どもの育成  
～国語科「読むこと」の授業を通して～

## 成果② 教師と児童が一体となった 学び合う授業の実現

### ○目指す授業像・手立ての共有

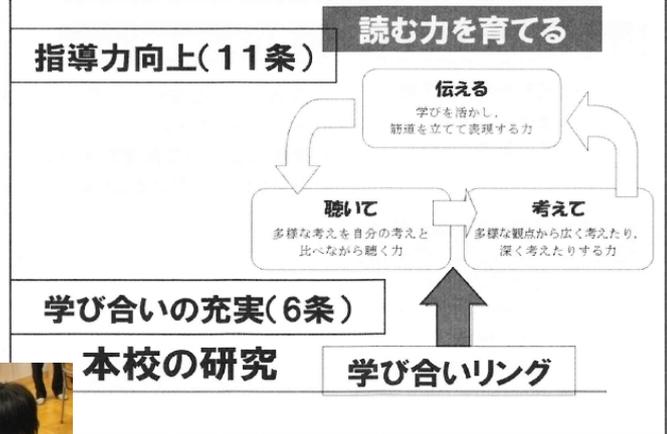
#### ◆教師間で◆

「学び合いリング」「聴き方・話し方ステップ」  
『学び合い』具体的な指導」で共有し、共通  
実践する。

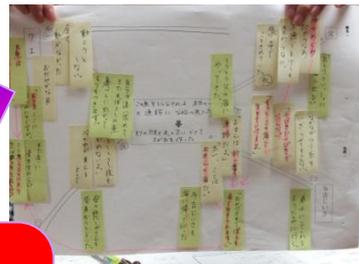
#### ◆児童と共有◆

子ども同士の授業参観、全校集会での授業デ  
モンストレーションを通し、自分たちの学級  
の目指す姿を考える。

- ・「授業の始まりは児童から」
- ・子どもどうしつなげて話す



自分の考えを持つ  
根拠をもって話す  
考えを比べて深める  
そのための手立ても検討  
し工夫が見られます



付箋を貼り、模擬  
授業で実際に作成  
し、検討しました。

## 成果③ 国語科の付きたい力を意識した 言語活動と単元構成の工夫



「付きたい力」を明確に持ち、その力が付くような言語活動を設  
定した単元構成を工夫する。

### ①付きたい力を明確に

・教科書の「たいせつ」を活用 ・学習用語・既習事項の掲示

②この言語活動を行うことによって、付きたい力が付くのか、子ど  
も達がわくわくする・目的意識を持つ活動になるのか単元を貫く言  
語活動のモデルを作成し、職員全員で指導案を検討。



### <研究発表会(11/15)参加者の感想>

- ・単元のゴール、付きたい力を子ども達自身も自覚して、教師と子どもと一緒に学習に取り  
組んでいる姿が参考になりました。「友だちの話を聴くことが喜びである」という子ども達を  
各学年の積み上げで育てている点、素晴らしいと思います。具体的な指導の手立てが分かり  
よかったです。
- ・自分の考えを伝え合う中で、考えが深化したり変化したりしていました。個人→グループ  
→全体へといくにしたがって確実に考えが深まっていました。
- ・子ども達の前向きな授業の姿勢や自分の考えを伝えたい、しっかりと受け止めて返したい  
という思いを強く感じました。